

第7期第2回豊中市文化芸術振興審議会

日 時 平成31年(2019年)2月4日(月)午後2時~3時15分

会 場 豊中市役所 第二庁舎3階南会議室

委 員 橋爪(会長)、藤野、原、山下、永田、大槻、安藤、中西、高木、上田 ※敬称略

事務局 本荘、志水、橋本、桑田、西岡、槌谷、原田、川南(以上、豊中市)

[開会]

1. (仮称)文化芸術振興助成金制度について

事務局○(資料1-1「文化芸術振興助成金について」、1-2「文化芸術振興助成金審査基準(案)」、1-3「文化芸術振興助成金助成対象経費(案)」、1-4「文化芸術振興助成金審査部会の設置について」に基づき説明)

委 員○募集要項の原案はできているか。たとえば審査基準「公共性」の「市の進める施策」は市全体のことを指すのか、推進プランを意味しているのか。応募する方が良く分かるように、内容の精査が必要。

事務局○市全体で進める施策に沿うもの、と考えている。要綱はよく検討したい。

委 員○交付の時期は事後になるのか。民間や財団だと先に入金されることが多くて使い勝手が良い。自治体は事後が多いが。

事務局○事後と考えている。

委 員○前払いのところも増えてきていて、お金を貸す制度を作っているところもある。

○2分の1助成は、200万円いただいても、残り100万円用意しないといけないので、しんどい面がある。東京のーツカウンスルをやっているところでは、3分の2助成があって、3分の2ぐらいまでは常識になりつつあると思うので、今後の改善のところで検討してほしい。

事務局○本助成金制度の市の考え方として、2点ある。1点は、自助努力を補完するものとして、団体・個人の自主性を重んじている。事業をより良くしてもらうための+αで使っていただきたい。もう1点は、市で提案公募型委託制度という制度があり、行政課題解決のために団体から募集を募って委託するものだが、こういう制度との整合を図っていく必要もある。3分の2、2分の1という議論はあろうかと思うが、今回は2分の1に決めさせていただいた。今後制度を運用していくなかで、

あまりにも改善の声が多いようであれば、改めて検討していきたい。

委員○申請書と同時にアンケートを出し、どういう活動をしていて、どんなパートナーがいて、何に困っているのか等を調査も兼ねて聴けたら良い。

委員○公開プレゼンテーションはどれくらいの方が来る想定か。

事務局○予算が 400 万円の予定なので、10 団体程度と想定している。

委員○「助成対象経費」の「消耗品費」について、制作に係る物的なものを入れなくてよいか。

会長○消耗しないものもあって、アート作品等は資産として残る。

委員○衣装代なども、必要な場合がある。レンタル経費をどこまで柔軟に運用できるか。

会長○レンタルの方が安ければレンタルにしてみよう等、考え方について再検討が必要。

事務局○検討させていただく。

委員○審査項目が細かすぎる気がする。

委員○実際にこういう項目で審査したことがあるが、良い事業を残せなかったり、差異が付きにくかったりというデメリットがあった。

会長○総合的な評価や、加点式など、良いものに対して自由度のある評価ができると良い。

○「子どもが文化芸術に親しむ機会・環境の充実」「文化芸術の力を活かした地域の課題解決の取組み」という 2 本柱に対して、違う視点になると思うので、審査が同じ枠で良いのかどうか。それぞれに求めるものを別立てでも良いのかもしれない。

委員○現場の感覚からすると、社会包摂系の事業は受益者負担が難しいので、実際続けていけるのは制度活用している福祉団体や大学等が主になる。そうすると文化芸術振興助成金でありながら、お金を出しているのは福祉や教育機関になり、ではどうやって文化芸術を担う地域の団体にこの助成金を使ってもらおうのかということがある。ここについては丁寧な説明と、良くしていくという姿勢と、時間をかけてでも制度の改革をしてほしい。

委員○豊中市の文化芸術連盟と、その構成団体の一つの三曲協会を担っているが、どちらか一方しか助成を受けられないか。

事務局○事業の実施主体に対して助成していくので、別事業であれば、個別に申し込んでいただくことが可能である。

委員○公開プレゼンテーションによって他の団体が学べるし、中間のふりかえりの場や助成金申請のセミナー等、できる限りのこちら側からの周知をしていただけたら。

事務局○審査部会については、文化芸術振興審議会規則第6条に基づき部会を設置し、委員は会長指名となっている。

会長○3名ということで、部会長は藤野委員、委員は山下委員、上田委員にお願いしたい。部会での審査結果やプレゼンテーションの様子等も、この審議会に報告をお願いしたい。

2. 文化芸術推進プラン改訂に基づく進捗管理について

事務局○（資料 2-1「文化芸術推進プラン改訂版に基づく進捗管理について」、2-2「文化芸術推進プラン改訂版の指標案」に基づき説明）

委員○数値だけで評価ができるかという疑問がある。自治体によっては、審議会の委員が代表的な事業を手分けして見に行くところもある。いくつかは実際に見に行き判断してもよいのでは。

会長○指標は、行政が進捗管理するための定量的な数値ということで、それがあつたうえでの審議会の定性評価ということになる。事業内容については、この場で審議するための情報としては必要かもしれないが。

○A～Eの5段階の評価とあるが、90%満たしていても、評価はBとなってしまうので、せめて10点刻みにするか、そのままのパーセンテージを示すか、どちらかにした方がよいと思う。

委員○PDCAという考え方がある限りは、審議会で議論するための相当の材料が必要で、さきほどあつたように実際に見るといいうのも大切。事務局だけでは判断も難しいので、審議会としてもある程度手分けしていくことを推奨しては。

委員○目標値について、意図が違うものに対する数値を揃えて評価していくというのが、とても難しいように思う。

事務局○資料の網掛けの部分はあくまで参考値で、個別に相応しい目標数値を設定したいと考えている。また、どの事業を指標の対象にするかも、今後、より精査させていただきたい。

事務局○一つの施策に対して一つの指標でないといけないわけではなく、多面的に見ていく必要があるものもある。本日のご意見をもとに再度検討させていただきたい。

会長○プラン改訂版は 32 年度までということで、すぐに次の計画に着手することになるが、次のプランへうまくつながるような PDCA のまわし方なども考慮していただけたら。改訂版に基づく進捗管理は、30 年度の実施分からということで、本日の意見をふまえてすぐに整理と目標値の設定が必要だが、今後の進め方について事務局はどう考えているか。

事務局○本来であれば、改めて目標値等についてご意見いただく場を持つべきだが、時間的な制約もあり、会長とご相談して決めさせていただきたいと考えている。

委員○一同了承

3. その他

事務局○市主催行事の案内等

委員○先日、案内いただいた中学生のコンサート体験を拝見した。とても良かったので、他にもたくさん事業があるかと思うが、またご案内いただけたら。

委員○指定管理者選定評価委員会の平成 30 年度の審議内容の報告を、次回していただきたい。

[閉会]

(以上)